

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700057		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・相生①		
所在地	島根県浜田市相生町1445番地2		
自己評価作成日	2022年 8月 31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	2022年 9月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ここ2年半、コロナ禍でレクリエーションとしての外出もままならなかったが、お誕生会を中心にささやかであるが特別食を提供して気分転換を図ってきた。
 ・新型コロナウイルス感染症対策として、日に2度の施設内消毒を励行した。また、基本的な感染予防対策として、手洗いの徹底・マスク装着、介助時のグローブ使用、会話時に距離を保つなどに留意した。また、ご家族にもご理解いただき面会制限などご協力をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中の施設で幹線道路から少し入っている為交通量も限られ静かな環境にある。ここ数年はコロナ禍で外部との交流は断たれ、面会もままならず刺激のない中、敬老会では職員が芸を披露するなど入所者の楽しみに繋がるよう取り組んでいる。コロナウイルス感染症の感染予防対策を続けながら、以前にも増して業務が煩雑とする中、職員間のチームワークは良く何事も一致団結して取り組まれている。
 地域の中の施設として時間をかけて築いてきた関係もコロナ禍で中断。それに加え住民の高齢化もあり、今後に於いても災害時等での協力も望みにくい状況だが、この4月以降は実習生の受け入れや研修を再開するなど明るい動きも出てきている。多くの課題がある中でも2つのユニットの協力でコロナウイルスの感染等を乗り切った経験を基に、今後も前向きに取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を毎月職員会議で共有を図り、その人らしい生活が送れるように全職員で実現に努めている。	新規採用職員には理念を含めて仕事内容を伝えるため担当の職員を付けるようにしている。大半の職員は入れ替わりが無く経験も積んでいるため、コロナ禍でも意識統一して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の行事が中止になる中で、回覧板を回したり、散歩に出かけたり、地域の人達との交流を図っている。	コロナ禍以前は近所にあるお宮の祭りなど地域行事での交流があったが、現在も中止状態が継続している。その中でも今年度からは福祉科の高校生の実習や介護福祉士の初任者研修の受け入れを再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、施設見学や入居相談時に認知症ケアのアドバイスなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は文書開催にしている。参加者から意見を伺い、サービスの向上に努めている。	コロナウイルス感染者が少ない時期は参集にて、多い時は文書開催としている。入所者の身体状況や行事、研修、事故報告。コロナウイルス感染症の対応などを伝え意見を得るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者窓口に対し、事業所の実情やケアサービスの取り組みなど折に触れ伝えるよう努めている。	市が地域包括業務を社協に委託した為、社協から運営推進会議への参加があり、専門的立場からの意見を得ている。行政とは書類の提出などで関わる場面があり、いい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一回の身体拘束適正化委員会を実施し、全職員の理解を深めるよう努めている。	身体拘束適正化委員会を定期に開催したり、リモートやYouTubeを利用して研修を行っている。今年度は本社での研修も再開し、参加した代表職員が、その成果を事業所に持ち帰り、研修を行うことにより意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回、高齢者の権利擁護、身体拘束・高齢者虐待防止の内部研修を通して、全職員の理解を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を開催し、制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項に沿って、丁寧に説明を行っている。特に契約解除や起こりえるリスク(転倒・リロケーションダメージ)などは対応方針含めて詳しく説明し、了解いただいた上で契約いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービス担当者会議などで意見を聞き、反映できるよう努めている。また、無記名での家族アンケートを実施し意見、要望を反映できるよう努めている。	コロナウィルス感染症の感染拡大前までは年1回の家族会を開催していたが現在は中止している。ご家族とは窓越し面会の時や玄関先での短時間の担当者会議の場などで、意見をできるだけ聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、普段のミーティングなどそれぞれの段階で職員の意見や要望を会社に伝えたり話し合ったりして対応してもらっている。	年2回の個人面談を行っているほか、日頃の利用者との関わりや感染症対策の対応等についてアンケートを行い、職員の生の声を聞くことで、振り返りや業務改善の機会に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向け支援し、取得後は職場内で活かせるよう配慮している。職員同士が思いを話せる環境の整備にも配慮しており、相互に刺激しあい向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力にあわせ段階的に法人内外の研修機会を確保するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を通じ情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問面談や担当ケアマネージャーから生活状態を確認している。また、ご本人の不安や心配事を伺い、少しでも安心して新しい生活が始められるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時には、現在に至るまでの経過等の傾聴に努め、ご家族の思いを受け止めつつ、今後に向けて、要望などをお聞きしながら話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に初回面接を行ない、本人の思いを伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ちょっとした場面の言動で、他者との関係を保とうとするコミュニケーション力などに気づかされることがある。そういった力を、職員は自分達も見習うべき年長者の力、各人の固有の力であると理解し共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れてはいても、情緒的に本人を支えることができるのはご家族であるとの認識のもと、利用者の様子をきめ細かく伝え、話し合うことで、家族の思いを引き出し、ともに本人を支えるための協力関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理美容院や病院(往診)など、なじみの関係が継続できるように支援している。	行きつけの理美容院のある方は職員が付き添い利用を継続している。かかりつけ医の受診も家族対応で続け、今までの関係性が継続するよう支援している。	いろいろな方法で今までの関係性が続くよう支援していただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については常に情報を共有し、食事やくつろぐ場としての席を配慮している。そうした中で、何気ない日常会話や、他の利用者を思いやる姿が見られることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所への転居や入院され退居になった方でも、退院後の受入れ先を提案するなど適時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。表明が困難な方の場合は、ご家族や生活歴などから思いを引き出すように努めている。	昔の限られた思い出を繰り返し話す方がある。記憶できることが少なくなってきたが、ご本人の意向の把握に努めるように、職員間で話し合っている。ご家族からはコロナ禍で会えないため面会の希望が多く聞かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできるだけ多くの情報を収集するようにはしているが十分ではない。入居後は家族や本人との会話の中から少しずつ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって、時間帯によっても変化する、状態や気分を把握するようにしている。気が進まないことや苦手だったりすることは強要せず、利用者の方の気持ちを重んじるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。申し送りやミーティング、職員会議など、いろいろな機会を捉え、気づきなどの情報交換や意見交換を行っている。	本人参加はできないがご家族とは、玄関先のエントランスでごくごく短時間ではあるが担当者会議を行っている。コロナ禍となり、入所者との関わりも減っており現状への理解を得ることが難しいと感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は毎日のミーティングで情報を共有し介護記録に記載している。また、日々の記録を根拠に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、臨機応変にサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院、病院や知人の面会を通じ、安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に事業所協力医に変更している。精神科は、在宅でのかかりつけ医を継続し、支援している。	かかりつけ医を継続することも、事業所の協力医に変更することもできるようになっている。協力医には月に2回の往診を受けており、夜間緊急時等にも指示が得られるようになっている。他の科には職員が付き添い受診を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で入院時の面会はできない状況である。病院の地域連携室と連絡を取り合い、退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は現時点で看取りの方はおられない。重度化に伴う終末期について、家族の安心と納得を得られるように状況に応じて主治医、家族との話し合いを持っている。	ご本人、ご家族関係者の希望があり、協力医とも相談してここでの対応が可能と判断した場合は看取りを行うこととしており、過去にも経験があり、今後も同じように取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の勉強会を開催し、急変・事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年1回は消防署に職員の派遣要請し、利用者職員で総合避難訓練を実施している。また、近隣の方の協力もいただき避難訓練や消火訓練を行っている。	裏に小高い山があり土砂崩れのイエローゾーンになっている為、火災・自然災害等いろいろな場面を想定して訓練を続けている。近隣も高齢化が進み、地域の協力を得ることは難しく職員のみで取り組むように考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体機能の低下に伴い、多くの介助を要する方もおられるが、ご本人の気持ちや表情から真意を察し、さりげなく働きかけるよう心がけている。できるだけご本人の意思を優先するようにしている。	コロナ禍となり外に出る機会が減り今まで以上に自分の部屋で過ごす時間が増えているので、特に部屋に入る時には注意するようにしている。ケアの基本として接遇研修等で繰り返し取り組む必要性を感じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が十分できない方もいるため表情やしぐさなどから読み取るようにしている。ひとり一人の状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすいように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの状態や気分や生活習慣に配慮し、ご自分のペースで生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃からこだわっておられる、化粧や服装ができるよう見守っている。また、馴染みの美容院でカット等していただくよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で、できた旬の野菜や食材を使って献立を工夫し、利用者の方に季節感を味わっていただけるよう努めている。	2つのユニットの間にあるスペースを利用して季節の野菜や春にはイチゴ、夏はトマト、秋にはブドウなどの果物も栽培し収穫を楽しみ料理に使うなど、みんなで楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量や食習慣、栄養バランスに配慮した食事の提供を心掛けている。水分補給はお茶やコーヒー、甘酒など同じ物にならないよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師や歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、入居者一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。誤嚥性肺炎の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	細かなアセスメントや介助方法を検討し、紙パンツを使用しているが、可能な限りトイレやPTイレにて座位で排泄できるよう支援している。	重度で紙おむつを使用している方は定期交換で対応しているが、紙パンツにパットの方、布パンツの方もいる。時間を見て声がけ、誘導したり個々に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食物繊維の多い野菜類を摂っていただけるよう調理の工夫を行い、水分量も把握している。便秘の方は、下剤を飲む時間帯を工夫し、決まった時間帯に排便ができるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴ができるよう配慮している。	普通家庭浴槽の為、重度で中に入れられない方はシャワー浴対応としており、週2～3回のペースで入浴できるように組んでいる。排便の失敗のある方はその都度シャワーを使用し清潔を保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心の不調や体の不調などの自律神経が整うCDを聴くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と、処方方がより効果的であるように、と症状や状態を細かく主治医に伝えるようにしている。副作用と思われる症状は職員から伝えることで、中止や減量などを判断されることがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや果たせる役割も少しずつ縮小してきてはいるが、得意なことをお願いして、ご本人の力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が減少する中で、散歩やドライブで気分転換が図れるよう努めている。	コロナ禍で外出の機会はかなり減っているが、近隣を散歩したり少人数でドライブに行くことで気分転換をしている。スペース的には広くはないが、畑を作り、野菜の成長を見たり、収穫することが楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方は金銭管理も困難になっておられ、ご本人の希望商品はホームで立て替えて購入することがほとんどである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会制限があり、家族に手紙を出す、電話を取り次ぐ、オンライン面会など活用し入居者様の不安を少しでも軽減できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング・居室などに季節の花を飾る。テラスや中庭に野菜や花を植え、季節感を味わえるように工夫している。	道路に面しているが交通量は少なく静か。住宅地の中で草木等はあまり見えない為季節は感じにくい、畑の野菜や果物を見ることで楽しめている。エアコンと冬場は床暖房を使用。共有空間は適度な明るさが保っている。感染症予防の為換気に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなど共有空間に椅子やソファを配置し、どこでも寛いでいただけるようにしている。また、他者から少し離れた所で、一人になれる居場所を持てるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みや、居室が使いやすい居心地の良い場所であるように利用者と話しながら整えている。また、身体機能の変化にあわせ、配置を考えたり、椅子やポータブルトイレを用意するようにしている。	思い入れのある物の持ち込みを薦めているが、大きめのクローゼットがあり収納ができ、物があることで落ち着かない場合もある。畳の部屋もあり状態に合わせて布団にするなど対応することとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には各々表札を、トイレには大きな字の張り紙があり、利用者が認識しやすい環境づくりに努めている。		